

防除指針 I

4. 野菜

野菜除草剤使用上の一般的注意事項

①薬剤の選択

本県では水田での野菜栽培が多いため多様な雑草が発生する。
除草剤を使用する圃場内の雑草占有状況や、栽培作物に対する影響の多少など考慮して薬剤を選択する。

②使用時期と回数

除草剤の登録使用基準を遵守することは無論だが、栽培作物の生育ステージに留意して使用時期を決定する。

③使用方法

非選択性除草剤は専用散布ノズルの使用や風向などに留意し、栽培作物や周辺作物に絶対に飛散しないようにすること。畝間処理では、作物にかかる確実に薬害が発生するので、風だけでなく上昇気流にも注意する。散布器具の洗浄液を畦間に流し込まないことも重要である。
土壌処理剤は圃場の土壌水分によって効果が変わる場合があるので、圃場が過乾燥あるいは過湿状態での使用は避ける。また、除草剤散布後に降雨があるとその効果が低下する場合や作物に薬害のおそれがあるので天候をよく見極めること。

④危害の防止

圃場周辺の水系に除草剤が流入しないように散布時の風向等に注意する。また、使用後の機器類の洗浄も安易に用水周辺で行わないこと。

除草剤対象作物一覧表

処理型	農薬名	作物名																							
		野菜類※1	きゅうり	トマト	ミニトマト	なす	いちご	キャベツ	ブロッコリー	だいこん	なばな	たまねぎ	たまねぎ苗床	にんにく	ねぎ	アスパラガス	レタス	非結球レタス (リーフレタス含む)	セルリー	パセリ	にんじん	オクラ	えだまめ	かんしょ	未成熟とうもろこし (スイートコーン)※2
茎葉処理剤	ブリグロックスL	◎	○	○	(○)	○	○	○	○	○	(○)	○	(○)	○	○	○	○	(○)	(○)	○	○	(○)	(○)	○	○
	サンフーロン液剤	◎	○	○	(○)	○	(○)	(○)	(○)	○	(○)	○	(○)	○	○	○	○	(○)	(○)	(○)	(○)	(○)	(○)	○	○
	タッチダウンiQ	◎	○	○	(○)	○	(○)	○	(○)	○	(○)	○	(○)	○	○	○	○	(○)	(○)	(○)	○	(○)	○	○	○
	ラウンドアップマックスロード	◎	○	○	(○)	○	(○)	○	(○)	○	(○)	○	(○)	○	○	○	○	(○)	(○)	(○)	○	(○)	○	○	○
	バスタ液剤		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ザクサ液剤		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	アクチノールB乳剤											○		○											
	ナブ乳剤			○			○	○	○	○		○	○	○	○	○	○					○			
	セレクト乳剤											○		○	○	○						○		○	○
	ワンサイドP乳剤															○									
	バサグラン液剤															○									
ホーネスト乳剤															○						○		○		
茎葉兼土壌処理	センコル水和剤															○									
土壌処理剤	クロロIPC														○										
	サターン乳剤																○	○							
	ラッソー乳剤							○	○		○														○
	ロロックス																		○			○			
	ゴーゴーサン乳剤															○	○	○	○			○			
	ゴーゴーサン細粒剤F															○	○	○				○			
	トレファノサイド乳剤		○													○	○	○				○			
	トレファノサイド粒剤2.5															○	○	○				○			
	クレマート乳剤															○						○	○		
	クレマートU粒剤															○						○	○		
	コンボラル															○						○			
	フィールドスターP乳剤															○									
	モーティブ乳剤															○									
ガスタード微粒剤 バスアミド微粒剤		○	○	○	○	○	○	○	○						○						○	○		○	

※1：野菜類で登録がある場合は、使用できる作物に（○）とした。

※2：農薬の適用上、未成熟とうもろこしは穀類のグループに属する。